

第8回 松蔭読書会  
2016年12月19日(月) 13:00~

## 『精霊の守り人』 (上橋菜穂子著 新潮文庫)

今年最後の読書会は、綾瀬はるか主演でNHK大河ファンタジーとして実写化、そしてアニメ化にもなり、話題の上橋菜穂子の『精霊の守り人』が選ばれました。今回の参加者は、高校1年生4名、保護者1名、司書4名の計9名でした。そして、今回の作品にちなんだお菓子は...守り人シリーズ10作目『天と地の守り人 第三部 新ヨゴ皇国編』にでてくる、バルサとタンダが食べたおかし「トッコ」(甘い芋の団子)を司書が作りました! さつまいもがとっても甘くて、焼き目もいい感じでおいしかったですね~

### 精霊の守り人を読んだ感想

- ・バルサが男の人だと思った。バルサのかっこよさ、強さにあこがれる。チャグムがかわいい。体内に卵をうえつけられる現象がとても神秘的に感じた。ナユグという、現実とそうじゃない世界の狭間の世界へあこがれる。
- ・バルサがかっこいい! 家やバルサを守り、支えているタンダのやさしさがとてもすてき、理想の彼氏像。ノギ屋の鶏飯がおいしそう。
- ・ファンタジーだけど、魔法が出てきたりといったファンタジーではない。日本的で新鮮。ハラハラする展開で おもしろかった。
- ・王の継承や権力争い、王宮での暮らしが韓国ドラマみたいだと思った。戦いのなかにも食事のシーンや普通の生活がちゃんと描かれている。ドラマ化されたとき、「大河ファンタジー」とされていて、「大河」で「ファンタジー」?と疑問に感じたが、実際に小説を読んで、ハリーポッターのようなファンタジーではないのだと、「大河ファンタジー」に納得した。
- ・獣の奏者を読んで、上橋菜穂子の世界観にはまり、この小説を読んだ。アクションが多くてすてき。人間関係の描写が複雑で、でもシンプルなところがよい。
- ・獣の奏者を読んでおもしろかったので、この作品も読んだ。獣の奏者と比べて、設定が複雑ですこし難しい。チャグムの表情がやわらかくなっていく、チャグムの変化にとっても惹かれた。
- ・ハイファンタジーではなく、地に足がついているのは、さすが文化人類学者である作者だと感じた。食べ物や暮らしが日本ぽく、食べ物は家で作りやすそう。いじめのシーンがあったり、普通の世の中の真実を、いいかげんでなく、きちんとえがいている。大人も子どもも読める作品でとても惹かれる。
- ・実の父から命をねらわれる、体に卵をうえつけられる、母と離れてくらすねければならないというチャグムの状況、運命に胸がしめつけられた。バルサの設定もとても切なく、運命を背負って生きているという状況がバルサとチャグムふたりともにも重なるからこそできる絆、関係がとてもすてきだなと思った。戦いのシーンが小説もドラマもとてもリアルで白熱しててかっこいい! でてくる食べ物がとてもおいしそう! 特にノギ屋のお弁当の鶏飯はおいしそうで、図書館に入っている『『守り人』のすべて 守り人シリーズ完全ガイド』(上橋菜穂子著 偕成社編集部編 偕成社)に、この鶏飯のレシピが載っていたので、家で実際につくっちゃった! とてもおいしくできた!



## 好きな人物

主要人物から脇役までみなさんの好きな人物いろいろあがりましたね！  
バルサとチャグムはやっぱり人気でしたね～

### バルサ

- ・強さと優しさがすき。
- ・運命を背負って、使命を全うしているのがカッコいい。
- ・ドラマの綾瀬はるかはずこし合っていないような気がしましたが、やっぱりバルサがいちばんすき。父を殺されてもジグロと共に生きていく、ジグロが殺した数々の命を救う約束を守るという強さ、正義感、チャグムに“世の中は公平じゃない”と本当のことを教える優しさがすき。

### チャグム

- ・芯の強さ、賢さがすき、応援したくなる。
- ・だんだん成長していくところがすき。
- ・変わっていく過程がすき。皇子としての気品。

### モンとゼン（狩人）

- ・皇帝の隠密の狩人たちがすき。バルサとの戦闘シーンがかっこいい。強い。おおきな武器は使わず、肉体的な武器でたたかう東洋的な戦術がかっこいい。

### トロガイ

- ・おばあさんではなく、おばあちゃんのイメージ。強くて、かわいいところがすき。ドラマの姿は印象がちがってすこしこわかったです…。

### タンダ

- ・料理上手でつねに、サポートし、守るやさしさがすき。
- ・タンダさんみたいな旦那さんがほしい。

\*他にも、**ナージ**や**ラルンガ**、**チャグムの母の第2の妃**、この先のシリーズででてくる**ヒューゴ**もあがりましたよ

## 物語についてのあれこれ

気になった部分についていろいろ話してみました

### 《卵について》

そもそも卵のサイズは？卵の出し方ってどう思う？卵が孵化したら？チャグムの体に宿った卵についてみんなで話しました。物質でありながら、本当にはない、目には見えないあいまいな存在のふしぎな卵についていろんな意見が出ましたね。

### 《p84「商人の話し方は、とつてもなめらかではやし、農夫たちは、ぼそぼそと、あまり抑揚をつけずにしゃべるしね。海のほうにいけば、船乗りなんぞは、怒鳴るようにしゃべるよ。」について》

職業によって独特な話口調が存在し、喋り方がそれぞれ違うよねという話をしました。舞妓さんや芸者さんの声もお客様に魅せるため、とても独特な話し方でこれと同じだねと話す生徒もいました。

### 《卵はどうしてチャグムにうみつけれられたとおもう？》

以前は、ヤクーの子にうみつけれられた卵。今回はどうして皇子にうみつけれられたのかということについて話しました。小説の最後では、チャグムは自分で、たくさんの命に自分は守られてるから卵を託されたのだと話していますが、それならどうして以前はヤクーの子に？という疑問が…ヤクーがいた頃は卵に関する知識があったから卵を守れたという意見が出たり、昔のヤクーの伝説を絶やさないように語り継いでいくために、卵は産み付けられてるのではないかと、卵は、その子の持つ力や卵を守ってくれそうな子が見える？などという意見もでました。また、卵は6つうみつけれられていますが、アニメの中ではその一つがなんとクマに産みつけられてるのだそうですよ！

### 《p247 はじめてジグロの気持ちがわかったというバルサの発言について》

バルサは今回、チャグムを守ったことで、ジグロの気持ちがわかる、守られる側から守る側になってはじめて気づく、親になってはじめて親の気持ちがわかるではないですが、守るものへの気持ちがバルサの気持ちを変えたのかもかもしれませんね。

来年1月からはドラマの続編が放送されまた話題になりそうですね 参加してくれたみなさんありがとうございました

### 次回予告

次回の読書会は

3月14日(火)の予定です。

課題図書は、アニメ

『文豪ストレイドックス』でも人気の谷崎潤一郎『秘密』です。

全30ページの短編！本文を印刷したプリントを配布予定です。芦屋には記念館、住吉には旧宅があり、神戸にゆかりのある谷崎潤一郎の短編読書会！初参加も大歓迎です。

みなさんぜひご参加ください！